



## 観光都市パリから皆様へ

ANAパリ支店 浅野 淳

パリに赴任して3カ月、やっと生活にも慣れてきました。フランスで生活を始めて、感じたことを皆様にご紹介いたします。

まずこちらに来て驚いたのは、日本食レストランが大人気だということです。オペラ界限には日本食レストランがたくさんあり、店の中をのぞくとフランス人がお箸を持ってラーメンを食べたり、どんぶりを食べていたり。満席状態が多く、まさしく大ブーム。理由として考えられるのは、日本食には安い、ヘルシー、おいしいの三拍子がそろっているからだと思います。普通の昼食ですと、フランス料理で食べれば20ユーロ(3,200円)以上はかかりますが、日本食であれば約10ユーロ(1,600円)で食べられます。日本人以外の方が日本食としてレストランを開いているケースも増えています。

さて、フランスのすばらしいところは、老若男女問わず、みんながよく挨拶をすることです。バスに乗っても運転手から挨拶されることがあり、東京で生活していたときの感覚からは驚かされます。フランス人は狩猟民族、日本人は農耕民族だからだと聞いたことがあります。実は小さいときから挨拶をきちんとするよう家庭で厳しく教えられているらしいのです。少年でも「ボンジョルネ(よい1日を)」という挨拶が普通



写真①



写真②

にできる、これはすごいことだと思います。

パリの街は、ペリフェリックという高速環状線に囲まれた地域で、東京の山の手線に囲まれた地区の約1.5倍の広さです。中心から渦巻き状に1区から20区まで分かれています。すべての通りに名前がつけられており、片側は奇数、もう一方が偶数の番地が振られています(写真②)。特筆すべきは、交差点にいくと、どの通りにも通りの名前と区名が書いてあります。地図さえ持っていれば、通りの名前から自分がどこにいるのかが明確にわかるのです。

世界有数の観光地パリ市、その街の美観を保つために、驚くべき手法で清掃がされています。日本と同じように清掃車も走っていますが、歩道の脇に水の蛇口があり、そこから水が出て、ごみを流してしまいます(写真①)。この水、おそらく市清掃局の職員がコントロールしているようですが、どういうタイミングで出しているのかは不明です。日本では「水がもったいない」と言われそうですが、水で街を洗い流すことで美観を保ち、年間約8千万人(国民の数は約6千万人)という多くの観光客を誘致しているのです。

どうぞ皆様もパリにお越しください。お待ちしております。